

河内長野市立ふるさと歴史学習館
企画展示「河内長野中世物語」
8月1日（水）～9月17日（月・祝）

平安時代後期から戦国時代までの時期は、「中世」と呼ばれています。一般的に中世は武士の時代というイメージが強いと思いますが、朝廷や地方の役所も一定の力をもっており、近畿地方では寺社も大きな力をもっていました。

中世の河内長野市域では、このような多様な勢力が地域を治めていました。金剛寺や観心寺といった寺院が支配した村もあれば、藤原摂関家と関係をもち、高野山参詣の中継地として発展した村などがありました。

今回の展示では、近年の発掘調査により明らかになった河内長野の中世世界についてご紹介します。



▲鳩原遺跡の発掘調査風景

企画展示「河内長野中世物語」

期 間 平成30年8月1日（水）～9月17日（月・祝）

会 場 河内長野市立ふるさと歴史学習館（河内長野市高向2230-5）

関連事業 歴史講座「河内長野の中世世界と一山寺院」

お問い合わせ

河内長野市立ふるさと歴史学習館

電話 0721-64-1560